

家庭教育学級新聞

第35号 R2.2.10

発行 山武市教育委員会

生涯学習課



毎日寒い日が続きます。春が待ち遠しい季節となりました。もうすぐ、卒業・進級の時期です。保護者の皆様には、今年1年間で大きくなったわが子をみて子どもの成長をしっかりと感じていただけるのではないのでしょうか。何一つとどまっているものはありません。大地も少しずつ暖まり、春の準備をしています。

令和元年度親業訓練入門 11月13日・20日・成東健康保健センター

「早くしなさい!」「何度言ったらわかるの!」・・・・・・。
私たちは一日に何回口に出しているでしょう・・・・・・。
私の大切な子ども・・・愛しているはずなのに、どうしてもいつも怒ってしまうんだらう? どうしてイライラしてしまうんだらう?・・・私って悪い親なの?
うちの子って悪い子なの?・・・誰もが抱える子育ての不安・・・・・・。
「子どもの話を聞きましょう」「思いやりのある子に育てましょう」と本には書いてあるけれど、具体的にはどうしたらいいの・・・・・・?

こんな悩みはありませんか?



どうしたらいいのかしら?

「親業訓練法」とは、アメリカのトマス・ゴードン博士が創案したものです。簡単に言えば、「子育て」のことですが、親業では、「親としての役割を効果的に果たすための訓練」と考えます。

つまり、「親業」を果たすということは、「一人の人間を生み、養い、社会的に一人前になるまで育てる」ということになります。(「親業」トマス・ゴードン 著 から抜粋)

講座は、講師の内田智代先生(親業シニアインストラクター)の会場を和ませるお話から始まりました。ワークショップ(参加型学習会)を行い、参加した方々の和気あいあいとした雰囲気が会場を包みました。参加された保護者の方々の感想です。

・子育てで悩んでいたことへの具体的な対策を教えていただいた。・今、悩んでいたことのほとんどを解決できるような気がする。・親子間のやりとりを、詳しく知ることができた。子育てに悩んでいても仲間と気持ちを分かち合うことができた。感謝の気持ちでいっぱい。

平成2年度の「親業講座」は山武地区・成東地区・松尾、蓮沼地区の3か所で行われます。日程が決まりましたら広報などでお知らせします。ぜひご参加ください。

成東中学区合同教育講演会



成東中学区の園・小・中学校合同で講演会が行われました。講師は、管理栄養士の酒井淳子先生で、子どもたちのために日々奮闘されている先生のエネルギッシュな姿に勇気をいただいた講演でした。
(成東中学校 11月7日)

家庭教育学級から

救急法実技講習会



日本赤十字社千葉県支部から石川安子先生を講師に招いて救急法を学びました。蘇生法では心臓マッサージと人口呼吸を真剣に行いました。AEDの使い方も知り、有意義な講習会となりました。

(山武北小学校 1月16日)

※3学期も、各園・学校で様々な家庭教育学級が行われました。「オリパラ集会」「スマホ・携帯安全教室」「いちご大福作り」「コサージュ作り」「ヨガ教室」「ヒップホップ」などです

我が家の子育て

山武市立成東東中学校教頭 足立 康幸



我が家は、私と妻、長男、長女の四大家族だ。「我が家の子育て」というテーマで、原稿をお引き受けしたものの、冷静に考えてみると、かなり自分にとっては難しいテーマであることに愕然とした。なぜならば、子育てのほとんどは妻に任せきりで、子どもたちが起きる前に出勤し、就寝後に帰宅する毎日。休日も部活動指導などで家にいないことが、あたり前の日々であったからだ。

そのような中、かろうじて、家族と向き合えた期間があったことを思い出した。二〇一一年四月から二〇一四年三月の三年間、アメリカ合衆国ミシガン州のデトロイト補習授業校に家族とともに、在外教育施設派遣教員として赴任した日々である。

志願して赴任したものの、初めての海外生活、海外勤務は予想をはるかに超えて大変な日々であった。私自身も日本の中学校とは全く違う業務内容を任せられ、右往左往のスタートであった。それは家族も同様で、特に長男には負担をかけることになった。

赴任当初、長男は六歳で小学校一年生に入学するタイミング、長女はまだ二歳だった。アメリカは全日制の日本人学校が少ないため、長男は、平日はアメリカ人が通う地域の現地校に通い、土曜日は私の勤務する日本人のための補習校に通うことになった。

しかし、平日週五日は現地校に通い、土曜日は補習校に通うという生活は、低学年の長男には過酷だった。現地校の宿題に加え、一週間分出される補習校の宿題を終わさなければならぬからだ。当時の長男には

とてもこなせる量ではなく、日本語の勉強を最低限させるだけで精一杯だった。英語環境の中で暮らしていたので、もっと英語を覚えるものと期待していたが、長男は英語環境に馴染めずに、ほとんど英語を覚えなかった。宿題の量が多すぎて、かえって勉強嫌いになってしまい、国語だけでなく、算数の基礎すらも身につかず、帰国後は勉強についていくのに随分苦労することになった。

長男とは対照的に、就学前だった長女は三歳から現地の日本語の幼稚園に通い、友達もたくさんでき、とても楽しいアメリカ生活を過ごした。ただ、味覚がすっかりアメリカンになってしまい、今でもフライドポテト、チキンナゲット、アイスクリームといった食べ物が大好きで、幼少期を海外で過ごすと、食育が難しいということを経験してから気がついた。

帰国後しばらくの間、長男からは学校生活で苦労したことを恨まれたが、時間が経つにつれて、つらかったことは忘れ、楽しい記憶が残るようで、今ではまたアメリカに行つてみたいと言うようになった。

アメリカでの生活をふり返ると、確かに大変なことは多かったが、そのおかげで家族の絆も深まったことも事実である。子どもが幼かった時期に家族と過ごす時間を保てたことは私にとっても貴重な時期であったし、我が家の土台になっている時期ともいえる。家族で近くの自然公園の湖で釣りをしたり、長男とメジャーリーグ観戦し、地元のデトロイトタイガースを応援したりした思い出は私にとって今でも宝物である。

我が家の子育ては、もうしばらく続く。日々悩みは尽きないが、子どもとの関わりを大切にしながら、これからも成長を見守っていきたい。

